

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成25年6月18日(火) 11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

発 表 事 項

1. 平成25年度YU-COE(山形大学先端的研究拠点)が決定
2. ペルー国立3大学との相互の修士学生派遣による新たな国際交流の展開
3. 山形大学7つのサテライト設置と日本語チューター派遣
4. 平成25年度「やまがた6次産業ビジネス・スクール」(第5期)を開校します
5. 平成26年度山形大学入学者選抜要項を公表します

お 知 ら せ

1. 「第26回タンデム加速器及びその周辺技術の研究会」の開催

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成25年7月2日(火)11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

プレス発表資料

平成25年6月18日
山形大学

平成25年度YU-COE（山形大学先端的研究拠点）が決定

山形大学ナスカ研究所をYU-COE(S)に認定し、新たに3件の研究グループへの支援を決定しました。

山形大学では、国際的に通用する高い水準にある研究拠点や、研究成果が社会、地域に大きく貢献する研究拠点を重点的に支援するとともに、将来、そのような拠点となり得る研究グループを発掘し、育成することを目的として、YU-COE形成支援を行っています。

平成25年度は、YU-COE(S)4件と(E)14件の研究グループへの支援を決定しました。

◆YU-COE(S)

大型の競争的資金を獲得するなど、外部からすでに拠点として認められている研究グループ

	研究拠点	拠点リーダー	新規・継続
1	総合スピ科学	理学部・教授 岩田 高広	H21年度から継続
2	分子疫学	医学部・教授 嘉山 孝正	H21年度から継続
3	有機エレクトロニクス	理工学研究科・教授 大場 好弘	H21年度から継続
4	山形大学ナスカ研究所	人文学部・教授 坂井 正人	新規

※山形大学ナスカ研究所は、平成22年度にYU-COE(E)に採択され、3年間支援を受けていました。

◆YU-COE(E) [E=Exploratory] 新規分

将来、国内外の先進的研究拠点となる可能性を有すると認められる研究グループ

	研究拠点	拠点リーダー
1	分子標的抗癌剤による薬剤性肺障害研究拠点	医学部・教授・久保田 功
2	次世代バイオマス分子資源開発センター	理工学研究科・教授・西岡 昭博
3	ライフ・3Dプリンタ創成センター Life-3D Printing Innovation Center(略称 LPIC ; エルピック)	理工学研究科・教授・古川 英光

(お問い合わせ)

企画部研究支援課 (渡邊・高橋)

電話 : 023 (628) 4845

平成25年度 YU-COE(山形大学先進的研究拠点)形成支援拠点一覽

平成 25 年 6 月 4 日
YU-COE 推進本部 決定

『YU-COE(S)』

研究拠点	整理番号	拠点リーダー	所属・職・氏名	新規・継続	備考
1 総合スピ科学	S21-1	理学部・教授	岩田高広	継続	
2 分子疫学	S21-2	医学部・教授	嘉山孝正	継続	
3 有機エレクトロニクス	S21-3	理工学研究科・教授	大場好弘	継続	
4 山形大学ナスカ研究所	S25-1	人文学部・教授	坂井正人	新規	
合計					4拠点

『YU-COE(E)』

研究拠点	整理番号	拠点リーダー	所属・職・氏名	新規・継続	備考
1 低炭素社会をリードする地域型天然ゴム資源活用センター	E23-1	理学部・講師	大谷典正	継続	
2 神経難病の根本的治療法開発のための基礎研究拠点	E23-2	医学部・教授	加藤丈夫	継続	
3 イノベーションと持続的発展を指向するグリーンマテリアルプロセスング工学研究拠点 ～グリーンマテリアル加工研究センター～	E23-3	理工学研究科・教授	伊藤浩志	継続	
4 21世紀における自然共生型水稲栽培のアジア学術拠点形成	E23-6	農学部・准教授	佐藤 智	継続	
5 偏光をプローブとした高エネルギー天文学の創成拠点	E24-1	理学部・教授	郡司修一	継続	
6 ZT5高性能熱電材料研究拠点形成	E24-2	理学部・教授	佐々木 実	継続	
7 パラオ諸島の生物多様性に関する教育研究拠点形成	E24-3	理学部・教授	半澤直人	継続	
8 臨床医学の要求に基づく生体機能修復医学工学研究拠点	E24-4	理工学研究科・教授	山本 修	継続	
9 微生物を利用した有機汚染物質の無害化研究の活性化産学連携拠点	E24-5	理工学研究科・教授	原 富次郎	継続	
10 モデルベースイノベーション研究拠点	E24-6	理工学研究科・准教授	松田圭悟	継続	
11 山形大学高度生殖テクノロジーイノベーション拠点	E24-7	理工学研究科・教授	阿部宏之	継続	
12 分子標的抗癌剤による薬剤性肺障害研究拠点	E25-1	医学部・教授	久保 功	新規	
13 次世代バイオマス分子資源開発センター	E25-2	理工学研究科・教授	西岡昭博	新規	
14 ライフ・3Dプリンタ創成センター Life-3D Printing Innovation Center (略称 LPIC; エルピック)	E25-3	理工学研究科・教授	古川英光	新規	
合計					14拠点

平成25年6月18日
山形大学

ペルー国立3大学との相互の修士学生派遣による新たな国際交流の展開

山形大学は、5月27日にペルー共和国リマ市にあるサン・マルコス国立大学と、翌28日にはペルー国立工科大学(同市)と大学間交流協定を締結しました。これにより、昨年12月に協定を締結したラ・モリーナ国立農業大学(同市)とともに、修士学生の相互派遣をはじめとする新たな交流の展開が期待されます。

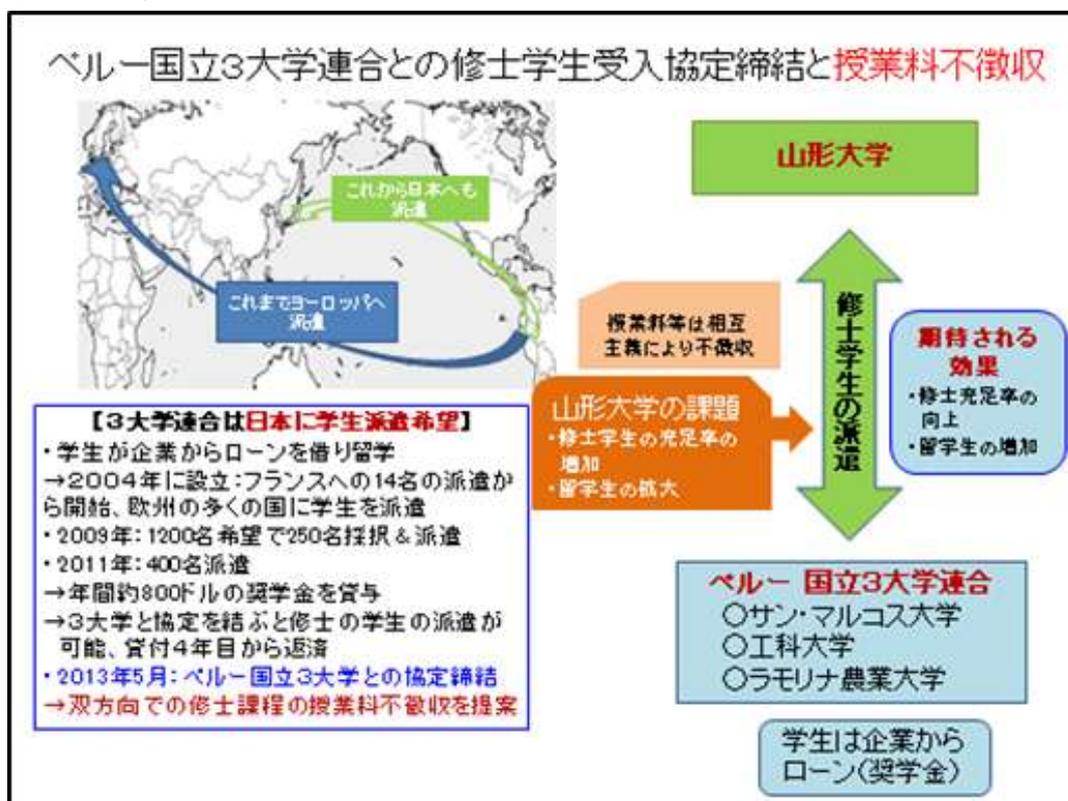
◆今後期待されること

1. ALIANZA ESTRATÉGICA (戦略的大学連合) との連携強化による留学生の受け入れ

海外で就学を希望する留学生のために、ペルーの国立大学長らで構成されている戦略的大学連合は、これまでに約1,000人の学生を世界各国(特にヨーロッパ)に派遣しており、この制度を使い、本学への留学を促すことが今回確認されました。

具体的には、同連合が日本に留学する留学生に対して月額約800ドルの学資を貸与し、山形大学側では大学院博士前期課程(修士課程)の学費・入学料を免除するという仕組みを検討しています。

これにより今後、3つの国立大学から毎年、最大で各校2名ずつを受け入れることが可能となります。



2. ペルー共和国における国際交流・学術研究の推進

今回は、昨年12月に大学間協定を締結したカトリカ大学、ラ・モリーナ農業大学の学長や国際交流担当者らと、今後の山形大学との学術交流や共同研究の推進、学生の相互派遣の方法等、また、ペルーに設置している山形大学サテライトの今後の活動内容についても話し合い、検討を行いました。

山形大学では、今後、ペルーにおける協定校との間で、更なる学術・国際交流を深め、教職員・学生の交流、シンポジウムやセミナーの開催、共同研究、教育・研究に関する情報交換等を推進する予定です。



協定書締結後のアウレリオ学長（右から6番目）らとの記念撮影（工科大学）

3. 南米地域における他の協定校と連携した形での活動展開

ナスカ研究をはじめとした南米地域（ペルー、チリ、ボリビア）における他の協定校と連携した形での活動展開も期待されます。（他の協定校：タルカ大学(チリ)、サンアンドレス大学(ボリビア)）

※**サン・マルコス国立大学**：アメリカ大陸で最も古い大学として知られ、今年が設立462年目。20学部を有し、学生総数約3万人の総合大学。ペルー国内の国立大学では、最高学府と称されており、数々の著名な学者・政治家・経済人を輩出している。

※**ペルー国立工科大学**：設立以来、136年の歴史を有し、同国の工学教育を先導してきた大学。11の工学系の学部を有し、学生総数約1万人の国立単科大学。これまでに日本政府との間で地震・津波の減災技術研究を実施してきた大学としても知られている。

（お問合せ先）

渉外部渉外課（国際交流室）

迎田、石澤

電話 023-628-4118

平成25年6月18日
山形大学

山形大学7つのサテライト設置と日本語チューター派遣

山形大学は、7つの国・地域にある協定校に海外サテライトを設置し、活発な国際交流を行います。また、それらのサテライトへ日本語チューターとして本学学生を派遣し、グローバルに活躍できる人材を育成します。

◆海外サテライトを設置している(する予定の)大学

1. ハノイ農業大学(ベトナム)
2. 延辺大学(中国)
3. ジョモケニヤッタ農工大学(ケニア)
4. カトリカ大学、ラ・モリーナ国立農業大学(ペルー)
5. ガジャマダ大学(インドネシア)
6. マレーシア工科大学(マレーシア)
7. ラトビア大学(ヨーロッパ(ラトビア))

◆海外サテライトにおける活動

- ・国際交流担当教員の派遣
- ・山形大学の紹介、現地の学生・研究者交流の情報収集
- ・海外留学及び外国人留学生の増加に向け、情報の発信と収集
- ・日本語教室の開講と本学学生を日本語チューターとして派遣

◆日本語チューター

- ・平成24年8月末から平成25年3月末までに派遣したチューターの人数は、計31人。(女子23人、男子8人)
- ・派遣期間は2週間～1ヶ月程度で、派遣にあたっては4万円を支援している。
- ・帰国したチューターが報告会を行い、体験談を通して情報を共有し、次期プログラムの改善につなげる。
- ・現在は、8月からベトナム及びケニアへ派遣する日本語チューターを募集中。

(お問合せ先)
渉外部渉外課(国際交流室)
迎田、石澤
電話 023-628-4118

山形大学 海外サテライトと担当教授駐在期間(含む予定)

ヨーロッパサテライト

ラトビア大学
(9-10月)



中国サテライト

延辺大学(6月)



ベトナム、マレーシア、
インドネシアサテライト

ガジャマダ大学 (7-8月)
ハノイ農業大学(11-12月)
(日本語教室開講)
マレーシア工科大学 (3月)



山形大学国際交流室

国際交流担当教授の駐在地での業務

- (1) 山形大学及び駐在大学の学生・研究者交流の現地窓口
- ・山形大学の紹介、現地の学生・研究者交流の情報収集と対応、共同研究の調整等
- ・海外留学及び外国人留学生の増加に向け情報の発信と収集
- 日本人留学生の滞在、外国人留学生のコーディネート
- 日本語教室の開講と日本語チューターへの受入
- (2) サテライトにおける協定大学での講義と研究指導
- (3) 現地での今後の国際交流のあり方の調査と報告



ペルーサテライト

ラモリナ国立農業大学
カトリカ大学
(日本語教室開講)
(5-6月)

ケニアサテライト

ジヨモケニヤッタ農工大学
(日本語教室開講)
(1-2月)



「日本語チューター派遣制度」の目的と実績

・2012年8月2日より、ハノイ農業大学(HUA)に日本語チューターを派遣

→山形大学の学生が、グローバル化時代に適応した人材育成の一環

・グローバル化時代に適応した人材とは、(1)自分を知り、(2)相手を知り、(3)状況に合わせて臨機応変創意工夫できる適応力を持ち、(4)優れたコミュニケーション能力を持つ、必要がある

(1)自分を知る

・学生は日本語チューターとして教壇に立つと、HUAの学生の注目を一身に浴び、自分が何者かを考えざるを得ません。その際に、異国では、自分は日本を代表しているわけですから、自分が育った日本の歴史や文化を考えます。

(2)相手を知る

・授業やその他の時間に異国の学生と深く接することで、同じ事象に対する、相手の考え方や行動規範の相違を知ります。

(3)臨機応変に創意工夫できる適応力を育てる

・この日本語クラスは課外授業ですから、多くの場合、正規の授業とぶつかります。したがって、いつでも出席できるし、何度でも出席できるようにしました。その結果、学生の数は変動するし、質にバラツキも出てきます。この状況の変化にどう対応したらよいか考えざるを得ません。

(4)優れたコミュニケーション能力の形成

・授業は、日本語だけでは成り立ちません。英語を媒介にします。否応なく、異なる局面で使う表現をあらかじめ用意しておく必要があり、時制や助動詞の使い方にも神経が行き届くようになります。

チューター派遣人数は、H24年8月末から3月31日:女子23人、男子8人、計31人

【ハノイ農業大学への日本語チューターからの感想】

日本語チューター(地域教育文化学部1年):いよいよ明日が最後となりました。本当に、ここまで密度の濃い時間を過ごせるとはいませんでした。これからの自分の人生に、確実に何かしらの影響を与えてくれたらと思います。将来教員になって青年海外協力隊のようなもので海外に出たいと思っているので、そういった意味では本当に良い経験ができましたが、自分の将来どうこうでなく、いい経験ができました。言葉では表せないような経験ばかりです。こうした経験ができたのも、安田副学長はじめ山形大学の皆様、大崎先生、ハーさん、そしてこちらの学生たちの支えあってです。本当にありがとうございました。残り1日をしっかりと過ごし、帰国したいと思います！本当にありがとうございました。

少人数日本語クラス



平成25年6月18日
山形大学

平成25年度「やまがた6次産業ビジネス・スクール」 (第5期)を開校します。

食農ビジネスの高付加価値化を実現するために、経営感覚と起業家精神を持って6次産業化の取り組む人材・経営者（及び将来の経営者）を育成するため、7月より「やまがた6次産業ビジネス・スクール」を開校します。
現在、受講者を募集中です。

1. スクールの概要

本事業は、農林水産省「新産業人材創出育成事業」の採択を受け、山形大学、山形県、農業団体などで組織する「やまがた第6次人材創生コンソーシアム」（事務局：フィデア総合研究所）が主体となり、実施します。

本スクールは、今年度で5期目を迎え、修了者もすでに112名を数えており（延べ受講者数154名）、農水省が認定する6次産業総合化事業計画の県内認定者40名（平成25年5月末現在）のうち、本スクールの受講者が8名を占めています。

今年度は、昨年同様、県外での販売実習などを取り入れるほか、新たに既存受講者や県外で6次産業化を目指すグループとの交流に力を入れるなど、より受講者のビジネスに直結するよう内容を充実させていきます。

2. スケジュール、修了要件

- 開校日程 平成25年7月9日（火）開校
平成26年2月まで、週1回程度、概ね1回4.5時間程度の講義を実施
- 修了要件 年間90時間以上の講義を取得し、ビジネス計画書を策定すると「修了」となり、審査委員会の認定を経て山形大学より「履修証明書」を授与

3. 募集内容

- 募集定員 30名程度（農業ビジネス管理コース、食品ビジネス管理コース、交流・観光ビジネス管理コース それぞれ10名程度）
- 出願期間 平成25年6月5日（水）～平成25年6月26日（水）まで
- 受講料 5万円（教材費、宿泊研修の交通費、宿泊費などの実費に充当）

（問合せ先）

〒990-2473 山形市松栄1-3-8 山形県産業創造支援センター内
株式会社フィデア総合研究所 6次産業推進事務局（担当：加藤・村山・佐藤）
TEL：023-674-0943 FAX：023-674-0944
ホームページ：<http://www.6ji.jp> Eメール：info@6ji.jp

平成25年度 やまがた6次産業 ビジネス・スクールの ご / 案 / 内

実践者のための能力開発プログラム
地域にイノベーションを起こす
6次産業の担い手・経営者を応援します。

やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム・山形大学

〈コンソーシアム構成メンバー〉

フィデア総合研究所、山形大学、山形県、山形県立農業大学校
やまがた農業支援センター、山形県農業会議、山形県企業振興公社
山形県中小企業団体中央会、山形県農業法人協会、やまがた食産業クラスター協議会
山形県グリーン・ツーリズム推進協議会、日本政策金融公庫農林水産事業

<http://www.6ji.jp>

やまがた6次産業ビジネス・スクールとは

本スクールは、食農ビジネスの高付加価値を実現するために、経営感覚と起業家精神をもって6次産業化に取り組む人材・経営者（及び将来の経営者）を育成します。

多様なニーズに応じた人材の育成

- 6次産業の経営、事業展開に関する体系的な講座を提供する県内唯一の体系的支援講座です。
- 「顧客を大事にする農業ビジネス」「付加価値をつけ儲かる農業ビジネス」を展開するために、あなたの経営能力アップとビジネス計画づくりを専門講師陣が指導いたします。
- 受講することで、同じ目的を持つ仲間づくりにも役に立ちます。



県外視察研修



仙台での販売実習



グループワーク

第6次産業とは？

農産物の生産（第1次産業）、食品加工・製造（第2次産業）、流通・販売・観光（第3次産業）を組み合わせ、多角的な経営によって、高い付加価値や新たな食と農の関連ビジネスを創出していく産業です。



県内外の第一線で活躍する講師陣による指導

■ 実践的かつ高度な内容

教育科目は、基礎的なものから専門性の高いものまで、いずれも大学教育と同等の講義レベルを目指しています。また、内容については、できるだけ実践に役立つ内容になるよう工夫をしております。

■ 多彩な講師陣

座学などの講義だけでなく、外部研修を組み合わせ、各界で活躍する多彩な講師陣の指導により教育効果が最大に発揮されるようにしています。

■ ビジネス計画書の作成

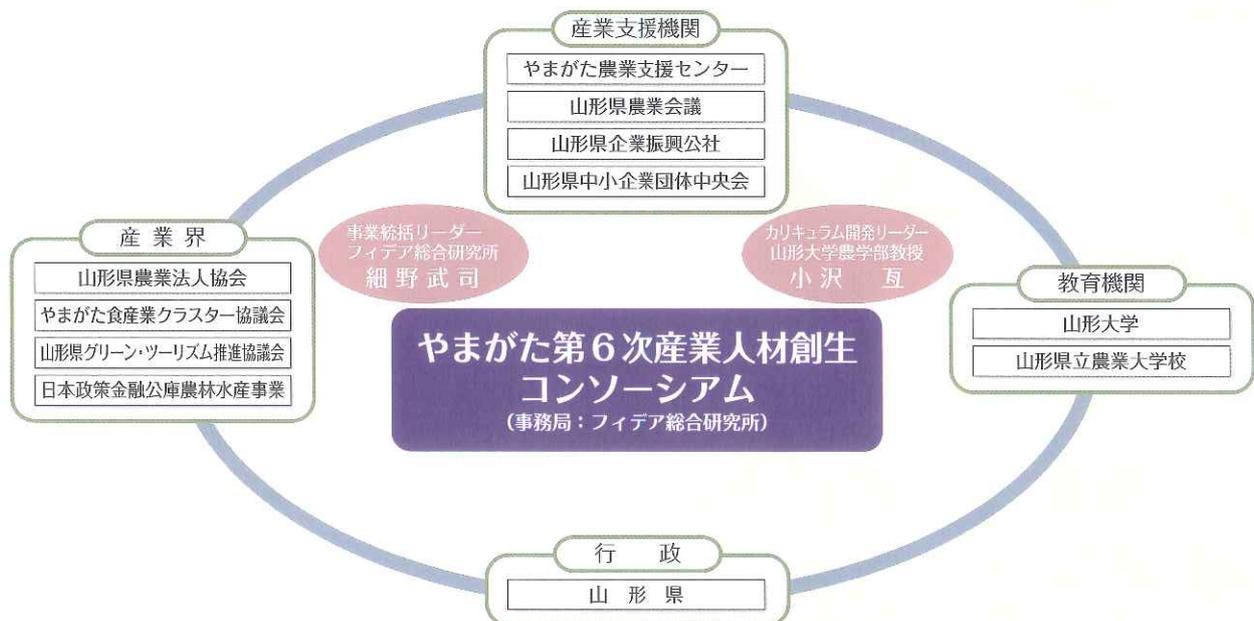
受講者全員が「ビジネス計画書」を作成することにより、各自がイメージするビジネスを表現し、実践をめざした即戦力が身につきます。

スクール修了後もビジネスの実現を支援！

ビジネス・スクール修了後も、受講者の事業化に向けた企画、経営、販売・市場開拓、財務などの支援サービスを、気軽にかつ優先的に受けられるよう、継続的な支援体制を整備していきます。



「やまがた6次産業ビジネス・スクール」実施体制



※(株)フィデア総合研究所が事務局となり、県内の高等教育機関、農業関係団体、企業団体、行政機関など、県内における産・学・官の横断的、かつ綿密な連携体制によって研修事業を進めています。

教育体系とコース内容



※本カリキュラムは、山形大学が編成しています。

❖ コース内容

◆ 農業ビジネス管理コース

農業をビジネス経営という視点で捉え、農業をベースに高付加価値化を目指して経営の多角化(6次産業化)や法人経営の拡大を図っていくための経営能力を開発する。

◆ 食品ビジネス管理コース

県内(地域内)農産物を原材料として、あるいは生産者と連携して付加価値商品(食品)の開発や販売をするなど、ビジネスの確立をめざす能力開発をする。

◆ 交流・観光ビジネス管理コース

農畜産業をベースに都市・農村の交流、観光を、経営の一部門として事業展開する能力、あるいは事業に関してアドバイス、コーディネートする能力の開発をする。

❖ 履修コースの選択

- 各自の進みたいコースを選択し、それに沿った履修ができるようにします。ただし、他のコース科目も、自らの6次産業化の必要に応じて履修できます。

❖ 修了証書・履修証明書の授与

- 本スクールは、90時間以上の講義を取得し、ビジネス計画書を策定すると「修了」となります。さらに、修了者が審査委員会の認定を受けると山形大学より「履修証明書」を授与します。また、平成25年度からスタートする内閣府の実践キャリアアップ戦略「食の6次産業化プロデューサー」キャリア段位制度との連動を予定しています。

❖ 開講日程(年間)

- 開講期間は平成25年7月から平成26年2月までの8ヶ月間です。
- 開講日 平成25年7月9日(火)
- 受講は原則として毎週水曜日を中心にして、月4回程度、おおむね1回につき4.5時間(11:00~12:30、13:30~16:30)の講義を実施します。その間に実習、視察研修などがあります。

❖ 受講料

- 5万円 ※教材費、宿泊研修の交通費・宿泊費等の実費に充当します。



カリキュラムの概要と学習量

- 科目は「基礎・共通科目」「選択科目」「ビジネス計画書作成」に分かれています。
- ◆ 「基礎・共通科目」：第6次産業および食農ビジネスに共通する基本的な知識を学びます。
- ◆ 「選 択 科 目」：各自の履修コース及び問題意識・関心に基づいて必要な知識を学びます。
- ◆ 「ビジネス計画書作成」：受講生自らの夢や構想を具体的に展開するための事業プラン策定を専任教員が指導します。

	科 目	回数	時間数	
基礎・共通科目	基礎・共通カリキュラム	8	52.5	
	1. 6次産業の意義と役割	1	3	
	2. 農山漁村の特性と新事業創出	(1)	3	
	3. 組織経営と地域ネットワーク形成、ワークショップ	1	6	
	4. フードシステム	(1)	3	
	5. マーケティング	1	4.5	
	6. 財務会計、資金計画の作り方	(2)	6	
	7. 6次産業化と知財管理、農林水産業関連の支援施策	(2)	3	
	8. 栽培技術最前線（稲作の栽培、農作物の保存、等）	(4)	6	
	9. ケースメソッド（グループディスカッション）	2	7.5	
	10. 販売力強化講座（販売実習、等）	3	10.5	
選択科目（コース別）	農業ビジネス管理コース	5	15	
	1. 車座談義－先進農業法人は今－	1	3	
	2. 農業経営管理、経営戦略－基礎編	1	3	
	3. 農業の経営戦略－実践編－	1	3	
	4. 融合型6次産業化事例【視察】	1	3	
	5. 連携型6次産業化事例【視察】	1	3	
	食品ビジネス管理コース	5	15	
	1. 食品市場の創造	1	3	
	2. 加工食品の流通販売、衛生管理	1	3	
	3. 食品の味と機能	1	3	
	4. 食品加工と衛生管理実践【視察】	1	3	
	5. 食品加工【実習】	1	3	
	交流・観光ビジネス	5	15	
	1. 交流観光ビジネス、地域資源利用論	1	3	
	2. フードコーディネイト論	1	3	
	3. IT活用による販売戦略	1	3	
	4. ホスピタリティ・マネジメントの実際【視察】	1	3	
	5. 貿易と輸出ビジネス	1	3	
	共通科目	科 目	回数	時間数
		ビジネス計画書作成	7	22.5
戦略構想、ビジネス計画書作成		7	22.5	
	(総合計)	30	120	

※回数の（ ）表示は、他講座と同日開催予定の講座

- 講義の一部には視察・宿泊研修も含まれます。
- カリキュラムの構成は講師の都合などにより変更になる場合があります。
- ※ 講義の詳しい日程、内容等については「やまがた6次産業」ホームページ(<http://www.6ji.jp>)にてご確認ください。

受講生の募集について

1. 募集定員 30名程度

コース別募集定員		
農業ビジネス 管理コース	食品ビジネス 管理コース	交流・観光ビジネス 管理コース
10名程度	10名程度	10名程度

2. 応募資格

次のいずれかに該当する方

- ①農業を基軸に、6次産業ビジネスを起こす考えをもっている方
 - ②商工業、建設業等で6次産業ビジネスに進出する考えを持っている方
 - ③市町村、団体等の職員で6次産業に関する指導者やコーディネーターをめざす方
- ※原則として、パソコン、インターネット利用可能な方とします。

(応募が定員を上回る場合は、選考委員会において選考し、後日ご連絡いたします。)

3. 出願期間、出願先

- 出願期間 平成25年6月5日(水)から平成25年6月26日(水)(当日必着)まで
- 出願先 〒990-2473 山形市松栄1-3-8 山形県産業創造支援センター内
株式会社フィデア総合研究所 6次産業推進事務局 宛

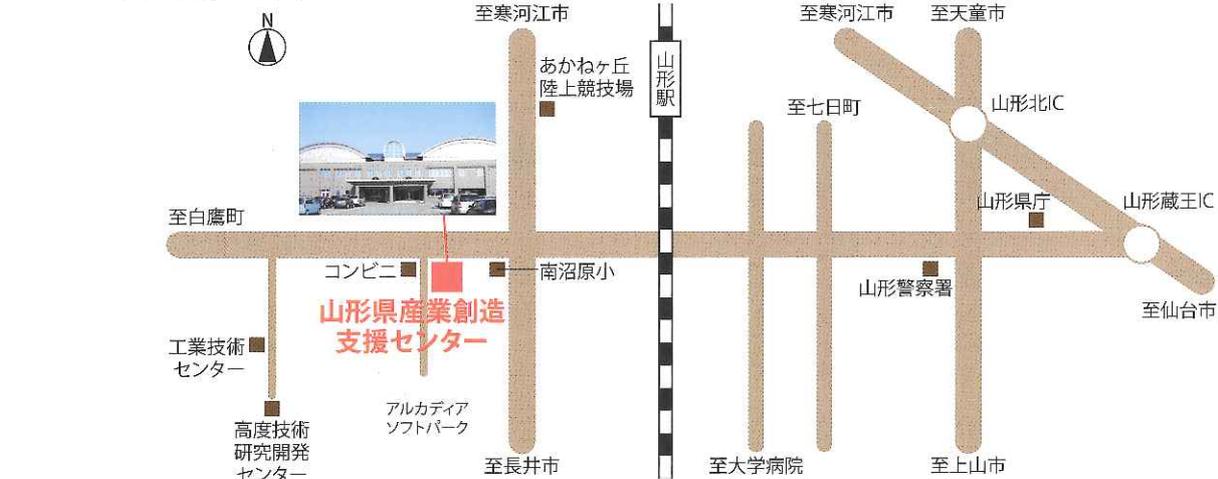
右頁が入学申込書になります。切り取って両面記入し、送付して下さい。

4. 開講場所

- 講義は、山形県産業創造支援センターを中心に開講します。
- 実習等の内容やスケジュールの都合等により、開催場所が変更になる場合があります。

山形県産業創造支援センターへのアクセス

(会場画像・地図)



5. お問い合わせと資料請求先

〒990-2473 山形県山形市松栄1-3-8 山形県産業創造支援センター内
株式会社フィデア総合研究所 6次産業推進事務局 (担当: 村山、佐藤)
TEL. 023-674-0943 FAX. 023-674-0944 E-mail. info@6ji.jp
ホームページ. <http://www.6ji.jp/>

やまがた6次産業ビジネス・スクール入学申込書

氏名	ふりがな	性別		写真添付 のこと
		男・女		
生年月日 (年齢)	年 月 日 (歳)			
住所 (連絡先)	〒 —			
	電話	— —	FAX	— —
	(携帯)	— —		
	E-mail			

※下欄の該当箇所(数字)に○をつけてください

最終学歴	1. 高校卒 2. 短大・大学卒 3. その他 ()	
職 業	1. 農業(認定農業者の有無→ 有 ・ 無) (法人化の有無→ 法人 ・ 個人)	
	2. 建設業	3. 製造業(食品加工関係)
	4. 製造業(食品加工関係以外)	5. 卸売・小売業
	6. 観光業(宿泊・飲食関係など)	7. 行政・団体
	8. その他 ()	
	・個人事業主の場合【事業所名: 】	
	・法人の場合【会社名: 】	
	<input type="checkbox"/> 会社役員 <input type="checkbox"/> 従業員	
希 望 コース	1. 農業ビジネス管理コース	2. 食品ビジネス管理コース
	3. 交流・観光ビジネス管理コース	※選択コースにかかわらず、他のコース科目も必要に応じて履修できます。

- ・これからの事業展開、計画(受講審査のため、裏面に必ずご記入下さい。)
当スクールでは、具体的に新しい事業に踏み出したいという方の支援を念頭においた教育プログラムを実施します。今あなたが具体的に事業として進めたいと考えている、あるいは計画していることについて、その狙いも含めてできるだけ詳しく記入して下さい。

平成25年6月18日
山形大学

平成26年度山形大学入学者選抜要項を公表します

平成26年度山形大学入学者選抜要項を公表します。入学定員（1,685人）は前年度と変更はありませんが、主な変更点等については次のとおりです。

1 募集人員の変更

(1) 選抜試験ごとの募集人員の変更

1) 前期日程	3人増	(昨年度 1,111人)	→	1,114人
2) A〇入試	5人減	(昨年度 17人)	→	12人
3) 推薦入試Ⅱ	2人増	(昨年度 90人)	→	92人

(2) 学部における募集人員の変更

1) 理学部				
前期日程	3人増	(昨年度 125人)	→	128人
推薦入試Ⅱ	3人減	(昨年度 35人)	→	32人
2) 医学部				
前期日程	5人減	(昨年度 133人)	→	128人
推薦入試Ⅱ	5人増	(昨年度 20人)	→	25人
3) 工学部フレックスコース				
前期日程	5人増	(昨年度 30人)	→	35人
A〇入試	5人減	(昨年度 10人)	→	5人

※ 前年度（平成25年度）の入学定員・募集人員は別添資料のとおりです。

2 入学者選抜実施教科・科目等の主な変更点

○ 理学部物理学科

推薦入試Ⅰ

変更前：小論文、面接

↓

変更後：面接（口頭試問を含みます。）

○ 工学部フレックスコースシステム創成工学科

前期日程 個別学力検査等

変更前：数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学C）、理科（物理Ⅰ・物理Ⅱ、化学Ⅰ・化学Ⅱから1）

↓

変更後：数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学C）、理科（物理Ⅰ・物理Ⅱ、化学Ⅰ・化学Ⅱから1）、面接（口頭試問を含みます。）

3 選抜要項の請求方法について

山形大学のホームページ（パソコン、携帯電話、スマホ）から請求してください。

（お問合せ先）

インフォメーション・マテリアル部入試課

今野

TEL(023)628-4141

参 考

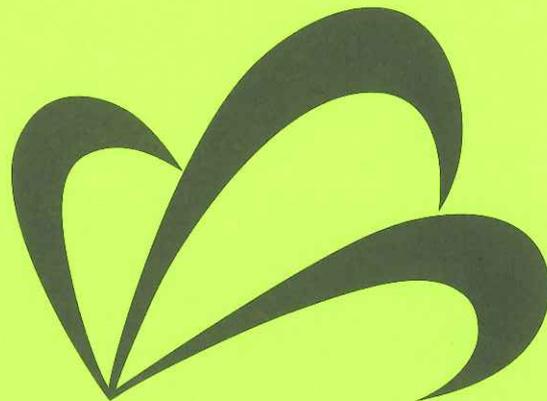
平成25年度山形大学入学者選抜入学定員・募集人員等

学部(学科, コース)名		入 学 定 員	募 集 人 員						
			一 般 入 試		AO入試	推 薦 入 試		社会人 入試	私費 外国人 留学生
			前 期 日 程	後 期 日 程		推薦入試I (大学入試センタ ー試験を免除す る推薦入試)	推薦入試II (大学入試センタ ー試験を課す推 薦入試)		
人文学部	人間文化学科	100	68	17		15		若干人	
	法経政策学科	200	130	40		30		若干人	
	計	300	198	57		45		若干人	
地域教育 文化学部	地域教育 文化学科	児童教育コース	80	55	13		12		若干人
		異文化交流コース	20	13			7		若干人
		造形芸術コース	15	10			5		若干人
		音楽芸術コース	20	14			6		若干人
		スポーツ文化コース	20	14			6		若干人
		食環境デザインコース	35	21	8		6		若干人
		生活環境科学コース	25	12	8		5		若干人
		システム情報学コース	25	12	10		3		若干人
		計	240	151	39		50		若干人
理学部	数 理 学 科	45	30	5			10	若干人	
	物 理 学 科	35	26	4		5		若干人	
	物 質 生 命 化 学 科	45	32	3			10	若干人	
	生 物 学 科	30	22	3			5	若干人	
	地 球 環 境 学 科	30	15	5			10	若干人	
	計	185	125	20		5	35	若干人	
医学部	医 学 科	125	95	10			20	若干人	
	看 護 学 科	60	38			22		若干人	
	計	185	133	10		22	20	若干人	
工学部	昼間コース	機能高分子工学科	110	69	10	<II> 7	25	5	若干人
		物質化学工学科	75	49	10		15		若干人
		バイオ化学工学科	60	40	10		9		若干人
		応用生命システム工学科	60	47			12		若干人
		情報科学科	75	49	10		10	5	若干人
		電気電子工学科	75	50	9		5	10	若干人
		機械システム工学科	115	75	10		19	10	若干人
	計	570	379	59	7	95	30	若干人	
	フレックス コース	システム創成工学科	50	30		<I>10	5	5	若干人
計	50	30		10	5	5	若干人		
農学部	食料生命環境学科	155	95	30		30		若干人	
	計	155	95	30		30		若干人	
合 計		1,685	1,111	215	17	252	90	若干人	若干人

- (注) 1 工学部の「昼間コース」は、昼間に授業を行う課程であり、「フレックスコース」は、主として夜間に授業を行います。昼間の授業の履修も可能な課程です。
- 2 推薦入試及びAO入試において、入学手続完了者数が募集人員に達しない場合、その欠員分は前期日程の募集人員に加えます。
- 3 工学部昼間コースのAO入試IIの募集人員は、工学部昼間コース全体で7人です。
- 4 人文学部法経政策学科、地域教育文化学部地域教育文化学科の異文化交流コース、造形芸術コース、音楽芸術コース、スポーツ文化コース及び工学部フレックスコースシステム創成工学科の前期日程募集人員の中には、社会人入試の若干人を含みます。
- 5 私費外国人留学生の募集人員は、各学部とも若干人とし、(工学部フレックスコースは、実施しません。)

平成26年度

入学者選抜要項



地域に根ざし、世界を目指す

平成25年6月

山形大学

プレス通知資料（概要）

平成25年6月18日
山形大学

1. 「第26回タンデム加速器及びその周辺技術の研究会」の開催

この度、山形大学高感度加速器質量分析センター（YU-AMSセンター）が主催し、「第26回タンデム加速器及びその周辺技術の研究会」を開催します。

この研究会は、タンデム加速器を中心とした静電加速器施設における技術者・研究者の現場レベルからの話題提供を通じて、参加者相互の情報交換を図り、関連研究の発展に資することを目的として行われています。タンデム・静電加速器に関する施設報告及び技術開発発表に加えて、様々なビーム高度利用分野からの研究発表をしていただきます。

◆開催日時：7月5日（金）～6日（土）

◆開催場所：ホテルキャッスル山形

◆参加費：一般2,000円 大学院生及び学部学生：1,000円

[詳しくは、別添の資料をご覧ください]

※これまでの学長定例会見でお知らせをしたもので開催がせまっているイベント

1. 学長特別講演会の開催について

『ソフトパワー大国をめざして～山形からの発信の可能性～』と題して、小白川、飯田、米沢、鶴岡の4キャンパスにおいて、結城学長が講演を行います。

◆対象：一般市民の方及び学生・教職員

◆開催日時：米沢キャンパス 6月21日（金）16:30～17:30

小白川キャンパス 7月4日（木）16:30～17:30

鶴岡キャンパス 7月19日（金）16:30～17:30

飯田キャンパス 7月31日（水）16:30～17:30

[詳しくは、別添の資料をご覧ください]

2. 第1回 最上義光没後400年記念「最上義光シンポジウム」の開催について

最上義光没後400年を記念し、山形大学都市・地域学研究所では、最上義光シンポジウムを2回開催します。なお、2回目は9月14日（土）の開催を予定しています。

◆開催日時：6月23日（日）13:00～17:00

◆開催場所：基盤教育2号館222教室（山形市小白川キャンパス）

◆入場料等：入場料は無料。ただし、資料代として100円。

[詳しくは、別添の資料をご覧ください]

^{10}Be

^{129}I

RILAC

AMS ^{36}Cl

^{36}Cl

^{129}I

^{129}I

^{36}Cl

第26回

タンデム加速器及び その周辺技術の研究会

会期

2013年
7月5日 金 9:50~18:00
[18:30~懇親会]
7月6日 土 9:00~14:30
[14:30~16:30 YU-AMS施設見学]

会場

ホテルキャッスル山形
〒990-0031 山形県山形市十日町 4-2-7

参加費

(プロシーディングス代含)
一 般 **2,000円**
大学院生・学部学生 **1,000円**

懇親会

7月5日 金 18:30~
一 般 **5,000円**
大学院生・学部学生 **4,000円**

参加申込&講演申込のページから懇親会参加or不参加をご記入ください。
懇親会費は当日会場受付で申し受けます。

概要

この度、名古屋大学年代測定総合研究センターで開催されました第25回タンデム加速器及びその周辺技術の研究会の後を受け、山形大学高感度加速器質量分析センターが「第26回タンデム加速器及びその周辺技術の研究会」の開催を担当することになりました。
本研究会は、タンデム加速器を中心とした静電加速器施設における技術者・研究者の現場レベルからの話題提供を通して、参加者相互の情報交換を図り、関連研究の発展に資することを目的として行われております。例年と同様に、タンデム・静電加速器に関する施設報告及び技術開発発表に加えて、様々なビーム高度利用分野からの研究発表をいただき、有意義で実のある情報交換ができる研究会にしたいと思っております。
山形大学は、2010年に「高感度加速器質量分析装置 (AMS)」を導入し、AMSの運用を行うための組織として、「山形大学高感度加速器質量分析センター (YU-AMS)」を設置いたしました。本研究会では、このYU-AMSセンターの見学も計画しております。本研究会にて、多くの皆様とお会いできることを楽しみにしております。

参加申込&講演申込

研究会当日に講演要旨集を配布しますので、別紙講演要旨フォームに従って作成し、締め切りまでにWord形式かPDF形式のファイルをメールでお送りください。

E-mail. ams@sci.kj.yamagata-u.ac.jp
講演申込&要旨締切 / 2013年6月21日(金)

主催 / 山形大学高感度加速器質量分析センター

招待講演

7/5 金 10:00~ 「山形大学における重粒子線がん治療とその将来の展望について」

根本 建二 山形大学医学部放射線腫瘍学講座 主任教授

7/5 金 15:00~ 「加速器を用いた新元素探索-113番元素の発見-」

森本 幸司 理化学研究所仁科加速器センター超重元素研究グループ グループ長
山形大学理学部 客員教授

お問い合わせ | 〒999-3101 山形県上山市金瓶湯尻19-5 山形大学高感度加速器質量分析センター
TEL. 023-695-6226 FAX. 023-695-6227 E-mail. ams@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

学長特別講演会「結城プラン2013」

何よりも学生を大切にする大学を目指して

我が国の将来と我々の生き方を考える

演題 『ソフトパワー大国をめざして ～山形からの発信の可能性～ 』

「品格ある国家とは何か」
「人生を強く豊かに生きるための人間力とは」

今、私たちの生き方を考えます。
東北、山形からの発信。そして挑戦！



結城章夫 学長

対象： 一般市民の方及び学生・教職員

**開催日時： 以下のとおり各キャンパスで
開催いたします。** ※開催日順掲載

- 米沢キャンパス 平成25年6月21日(金)16:30～17:30
会場： 4号館1階 大示範教室
- 小白川キャンパス 平成25年7月 4日(木)16:30～17:30
会場： 基盤教育1号館1階 112教室
- 鶴岡キャンパス 平成25年7月19日(金)16:30～17:30
会場： 3号館3階 301教室
- 飯田キャンパス 平成25年7月31日(水)16:30～17:30
会場： 基礎・臨床講義棟 大講義室

※各会場に専用駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用下さい。

本件に関するお問い合わせ先： 山形大学渉外課(社会連携担当)
TEL 023(628)4840

最上義光没後400年記念

第1回

最上義光

べにばなの城下町・やまがた
最上義光公
没後四百年



シンポジウム

今年是最上義光没後 400 年にあたります。

そこで、最上義光研究の最新の成果をわかりやすく語り合います。

開催日時：2013年6月23日(日) 13:00～17:00

開催場所：基盤教育院2号館 222教室

入場料：無料(但、資料代100円)



講師

片桐 繁雄(上山市立図書館前館長)

松尾 剛次(山形大学都市・地域学研究所所長)

齋藤 仁(山形市教育委員会 社会教育課主査)

最上義光研究最前線(仮題)

最上義光と山形

最上時代の山形城下

宝光院旧蔵文殊像



山形城下絵図



問い合わせ先

山形市小白川町 1-4-12

山形大学人文学部松尾研究室

TEL・FAX 023-628-4917

又は山形大学人文学部総務課

TEL 023-628-4203

主催：山形大学都市・地域学研究所